

## (10) FAC6043 キャンプ桑江 (Camp Kuwae)



## ア 施設の概要

(ア) 所在地：中頭郡北谷町（字桑江、字吉原）

(イ) 面積：675千㎡

単位：千㎡

市町村名	国有地	県有地	市町村有地	私有地	計
北谷町	14	0	42	618	675

(ウ) 地主数：671名

(エ) 年間賃借料：11億2千6百万円

(オ) 主要建物及び工作物

○建物：家族住宅、将校宿舎、青少年センター、倉庫、事務所、隊舎、中学校、体育館、医療倉庫、受電所、事務管理棟、整備工場、ポンプ室ほか

○工作物：保安柵、上下水道、雨水排水溝、野球場、球技用コート、駐車場、消火装置、貯槽、サッカー場、プールほか

(カ) 基地従業員：31名（MLC 26名、IHA 5名）

## イ 使用状況

(ア) 米軍部隊名

○管理部隊名：海兵隊キャンプ・バトラー基地司令部

○使用部隊名：-

(イ) 使用主目的及び使用条件（5. 15メモ等より）

○使用主目的：宿舎、管理事務所及び病院

○使用条件：

特に定められていない。

(ウ) 施設の現状及び任務

この施設は、キャンプ・レスターとも呼ばれ、北谷町の東シナ海に面した平坦地にあり、かつては米軍人やその家族のための海軍病院が設置されていたが、平成25年に同病院がキャンプ瑞慶覧に移転し、現在は主に家族住宅として使用されている。

施設内には、住宅以外に中学校、宿舎、倉庫、医療施設付属施設があるほか、国道58号沿いには、野球場、サッカー場、テニスコート、ピクニック場等がある。

同地区には、第15回日米安全保障協議委員会に基づく施設の整理統合計画の一環として、昭和59年2月に牧港住宅地区（既返還）の一部720戸が移設された。

なお、昭和61年2月、キャンプ瑞慶覧の一部（メイ/モスカラ射撃場地区、ハンビー飛行場地区）の返還に伴う代替施設として、送油管及び電力線敷きが同施設に組み入れられた。

(エ) 共同使用の状況

a 地位協定第2条第4項（a）：共同使用

## 第8章 基地の概要

共同使用者	使用目的	面積	使用開始年月日
○沖縄電力株式会社	電柱等敷地	0千㎡	昭47. 5. 15
○北谷町	道路用地	1千㎡	平16. 11. 15
計 2名	2件	1千㎡	

b 地位協定第2条第4項(b)：なし

### (オ) 沿革

昭和20年	米陸軍が使用開始（一部旧日本軍施設）。
昭和30年	陸軍病院建設。
昭和36年8月9日	約139,000㎡を返還。
昭和47年5月15日	提供施設・区域となる。
昭和49年1月30日	第15回日米安全保障協議委員会で、一部土地（北側及び東側部分並びに国道58号沿い部分、約160,000㎡）の無条件返還を合意。
昭和49年6月	OWA X司令部がキャンプ・マーシーから移転。
昭和49年8月31日	約36,000㎡を返還。
昭和52年1月27日	保安柵として、工作物（囲障）を追加提供。
昭和52年2月28日	施設管理権が陸軍から海兵隊に移管し、陸軍病院が海軍病院に名称変更。
昭和52年3月31日	県道23号線用地約2,760㎡を返還。
昭和54年5月4日	送油施設として、工作物（送油管、電力線等）を追加提供。
昭和57年5月14日	暫定法適用の土地約1,000㎡を返還。
昭和59年2月16日	住宅等として、建物約31,000㎡と工作物（囲障等）を追加提供。
昭和61年2月7日	住宅等として、建物9㎡と工作物（送油管等）を追加提供。
昭和62年2月11日	レクリエーション施設等として、建物約70㎡と工作物（囲障等）を追加提供。
昭和62年2月28日	住宅用地約1,390㎡を返還。
平成元年7月11日	隊舎として、建物約4,300㎡と工作物（水道等）を追加提供。
平成2年2月6日	青少年センターとして、建物約430㎡と工作物（水道等）を追加提供。
平成2年6月19日	日米合同委員会において、一部土地（第15回安保協了承部分（国道58号沿い及び東側部分2箇所）及び軍転協から要請のあった北側部分並びに東側部分1箇所）の返還について、所要の調整・手続を進めることで合意。
平成3年6月6日	下水等として、工作物（下水等）を追加提供。
平成5年12月16日	学校施設等として、建物約10,000㎡と工作物（囲障等）を追加提供。
平成6年12月31日	保健センター用地約16,000㎡を返還。
平成7年6月1日	管理棟等として、建物約3,200㎡と工作物（門等）を追加提供。
平成8年3月14日	通信ケーブル等として、工作物（通信ケーブル等）を追加提供。
平成8年6月6日	通信ケーブル等として、工作物（通信ケーブル等）を追加提供。
平成8年9月26日	工場として、建物約270㎡と工作物（門等）を追加提供。
平成8年12月2日	SACO最終報告で、海軍病院がキャンプ瑞慶覧に移設され、キャンプ桑江内の残余の施設がキャンプ瑞慶覧又は沖縄県の他の施設及び区域に移設された後に、平成19年度末までを目途に、大部分（約99ヘクタール）を返還することを合意。さらに、同最終報告では、住宅統合として、平成19年度末までを目途に、キャンプ桑江及びキャンプ瑞慶覧の米軍住宅地区を統合し、これらの施設及び区域内の住宅地区の土地を一部返還することを合意。
平成15年3月31日	北側約384,000㎡を返還。
平成17年11月10日	保安施設等として、工作物（囲障等）を追加提供。
平成17年12月16日	土地の一部約7,810㎡を陸軍貯油施設に統合。
平成18年5月1日	日米安全保障協議委員会（「2+2」）で承認された「再編実施のための日米のロードマップ」において、キャンプ桑江の全面返還が合意。
平成18年12月22日	日米合同委員会で、キャンプ瑞慶覧における海軍病院建設工事の実施が合意。
平成25年4月5日	「沖縄における在日米軍施設・区域に関する統合計画」において、キャンプ桑江は沖縄において代替施設が提供され次第、2025年度又はその後返還可能とされた。

### ウ 周辺状況等

#### (ア) 地域との関わり

キャンプ桑江の所在する北谷町の面積は13.93平方キロメートル、平成27年10月1日現在の人口は28,308人である。同町には、キャンプ桑江のほかに、嘉手納飛行場、キャンプ瑞慶覧、陸軍貯油

施設があり、町面積に占める米軍基地の割合は、52.3パーセントとなっている。

当該施設は、東側から西側にかけては住宅地域となっており、西側は国道58号と、南側はキャンプ瑞慶覧と接し、北側は平成15年3月末に返還された同施設の返還跡地で、現在、土地区画整理事業が行われている。

北谷町では、毎年、人口の増加傾向が続き、住宅需要も旺盛であり、国道58号沿いの平坦な地域を占拠している当該施設の存在は町づくりの障害となってきた。

こうした中で、北谷町では限られた土地や返還された土地を有効に活用した新しい街づくりが行われ、昭和63年3月には、桑江地先公有水面埋立工事が竣工し、美浜の運動公園用地には、サンセットビーチ、陸上競技場、野球場、水泳プールなどが完成した。また、平成6年には同埋め立て地域においてアメリカンヴィレッジ構想が策定され、複合型映画館、大型ショッピングセンター、宿泊施設等が建設されるなど、これまでの沖縄にはなかった特色あるタウンリゾートが形成された。この地域は、ハンビー飛行場跡（キャンプ瑞慶覧）の北前地区と連動し、町民だけでなく県内各地から多くの人々が訪れ、活気のある街となっている。

#### (イ) 施設及びその周辺における復帰後の事件・事故

キャンプ桑江から派生した基地被害は、昭和48年1月19日、陸軍病院（当時）発電所からオーバーフローした廃油が北谷町の沿岸を汚染した事故や、平成6年10月、キャンプ桑江内から米軍家族（少年）による投石、放火等悪質な事件が起こり問題となった。

また、平成26年10月30日には、海兵隊員の男が、キャンプ桑江内の住宅内に銃を所持して立てこもる事件が発生した。

## エ 返還計画・跡地利用計画

### (ア) 返還計画

平成8年12月のSACO最終報告で、キャンプ桑江107ヘクタールのうち、99ヘクタールの返還が合意され、平成15年3月に北側約38ヘクタールが返還されている。

また、平成18年5月の「再編実施のための日米のロードマップ」において、施設の全面返還が合意され、その後、平成25年4月に公表された統合計画において、

残る約68ヘクタールは、海軍病院、中学校及び家族住宅375戸がキャンプ瑞慶覧へ移設された後、2025年度又はその後に返還可能となることが示された。

海軍病院については、平成25年にキャンプ瑞慶覧への移設が完了し、同年4月に新病院が開院した。

### (イ) 跡地利用計画

この地域は、那覇市と沖縄市を結ぶ都市軸上に位置しており、中南部都市圏整備において重視される地域の一つであることから、住宅開発等総合的な都市開発整備を推進することとしている。

現在、平成15年3月に返還された北側部分（約38.4ヘクタール）では、北谷町の「職・住近接型」中心市街地形成のため、桑江伊平土地区画整理事業が進められている。

また、2025年度以降に返還が予定されている南側地区においては、平成26年9月に「特定事業の見通し」（学校用地：4.5ヘクタール）が、平成28年3月には「特定事業の見通し」（緑地・公園：2.5ヘクタール）が公表され、これらの用地の先行取得が進められている。